

「ものづくり精神」学生に伝授

来月から和客員教授に

東大阪市発の人工衛星「まいど1号」の仕掛け人として知られる航空機部品製造会社、アオキ（同市高井田中）の青木豊彦会長（68）が、今年4月から和歌山大（和歌山市）の客員教授として教鞭を執ることが17日、わかった。さらに大阪市立大（本部・大阪市住吉区）からも客員教授就任の打診があり、就任の方向で調整していることも判明。東大阪で培った青木さんの「ものづくり精神」を、学生に伝授する。

若い人材を育てたいという青木会長と、チャレンジ精神を学んでほしいという和歌山大との思惑が一致した。同大での講義は年に4～5回を予定。講義内容などについては今後両者で詰めるが、青木会長は「（経営者としての）体験談を中心に人と人とのつながりの重要性や、あらゆる物事に前向きに取り組む姿勢などを伝えたい」としている。

また、講義では東大阪の中小企業の魅力も解説する予定で、「起業を目指す若者を増やしたい」という。青木会長は、平成7年に父親の後を継ぎ、2代目社長に就任。アオキなどでつくる宇宙開発の協同組合の初代理事長として、21年に実現した「まいど1号」の打ち上げに尽力。昨年11月、社長から会長に就任した。



和歌山大の客員教授に
就任する青木豊彦会長
＝東大阪市高井田中

14. 3. 18 産経新聞 朝刊